

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

昨日（11日）から本日（12日）にかけて、ポンマチネシリ火口付近で火山性地震が増加しています。また、本日（12日）14時40分頃に、傾斜変動を伴う火山性微動が発生しました。その後、16時40分頃から噴気の量が増加しています。

今後の火山活動の推移に注意してください。

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

○活動概況

雌阿寒岳では、11日15時頃からポンマチネシリ火口付近を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しています。また、12日14時40分頃から約7分間の火山性微動が発生しました。火山性微動の発生は2024年11月6日以来です。

今回の火山性微動と同期して、主に火口近傍の傾斜計及び広帯域地震計で、火口方向が上がる傾斜変動を観測しました。

ポンマチネシリ96-1火口では平常時、白色の噴気が認められますが、12日16時40分頃から平常時と比べて噴気の量が増加しています。18時現在、量を維持したまま白色の噴気が火口縁上高さ100mまで上がり北東方向へ流れている状況です。

○活動評価

近年、ポンマチネシリ火口付近及び中マチネシリ火口付近の浅部では地震の増加が繰り返し認められていましたが、2024年11月以降、地震は少なく、火山活動は概ね低調に経過していました。

11日以降、火山性地震増加や傾斜変動を伴う火山性微動発生、噴気の増加など、火山活動に変化が認められており、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『基盤地図情報』を使用しています

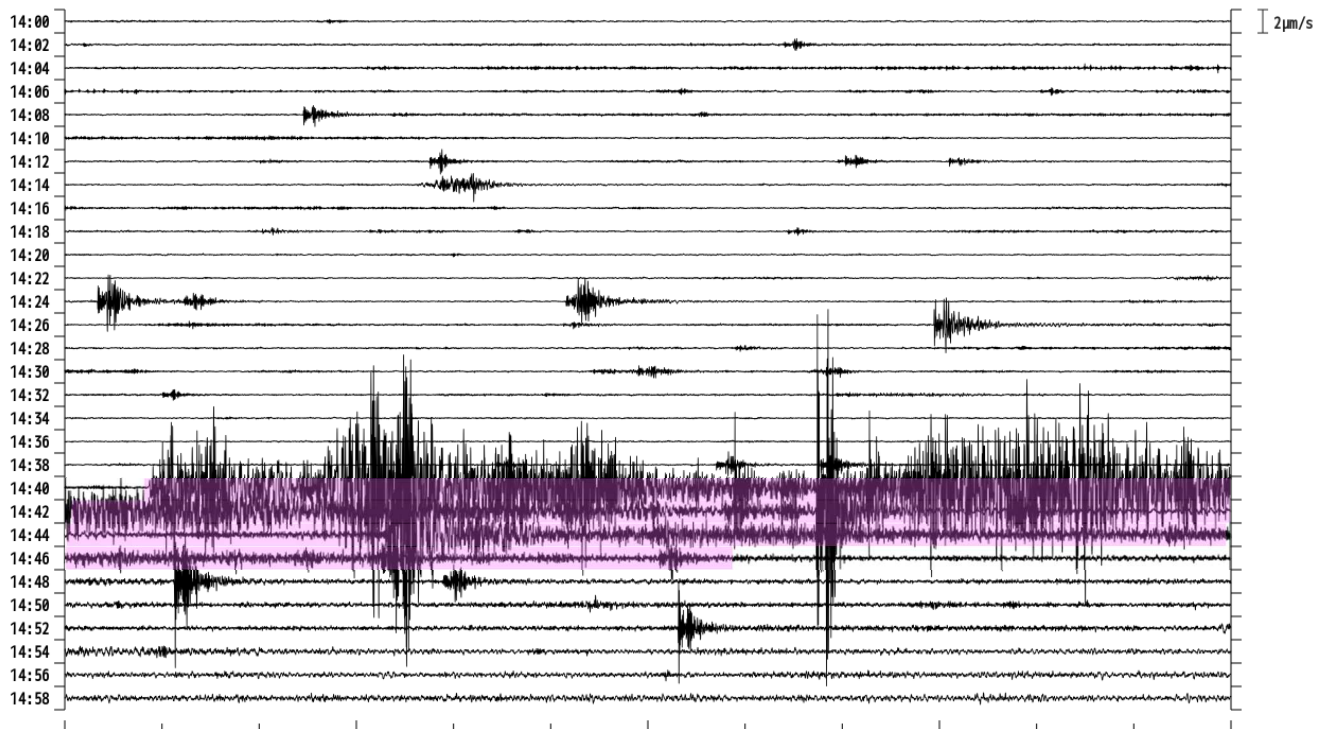


図1 雌阿寒岳 オンネトー南東観測点の上下速度波形（9月12日14時～15時）

2分

■：火山性微動

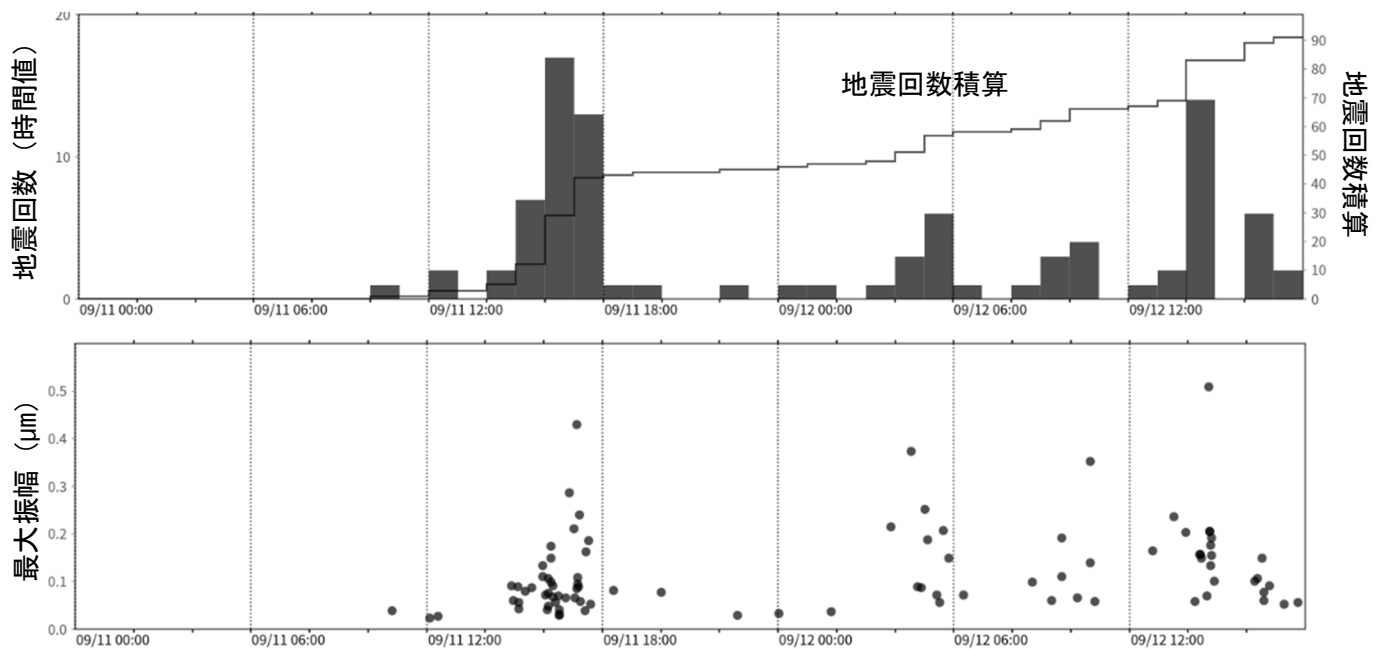


図2 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2025年9月11日00時～12日18時）

上：特別地震回数（速報値） 下：オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅

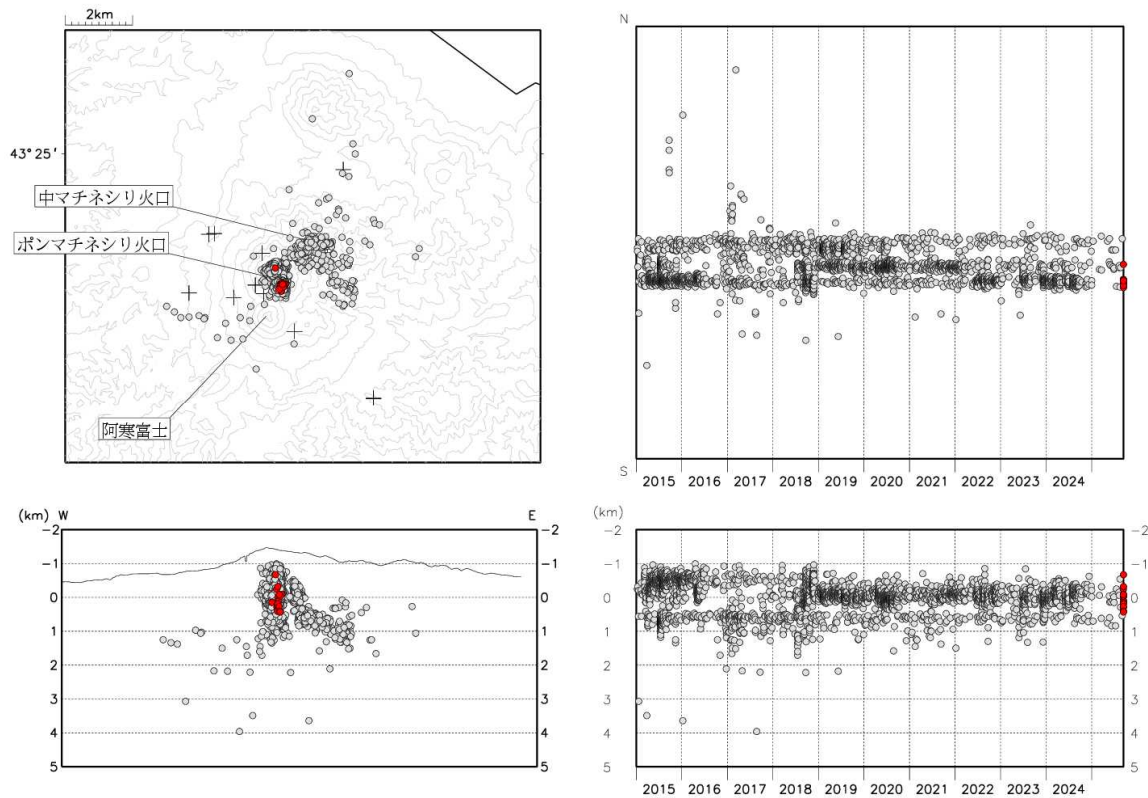


図3 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2025年9月12日）

●：2015年1月～2025年9月10日の震源 ●：2025年9月11日～12日の震源
+：地震観測点

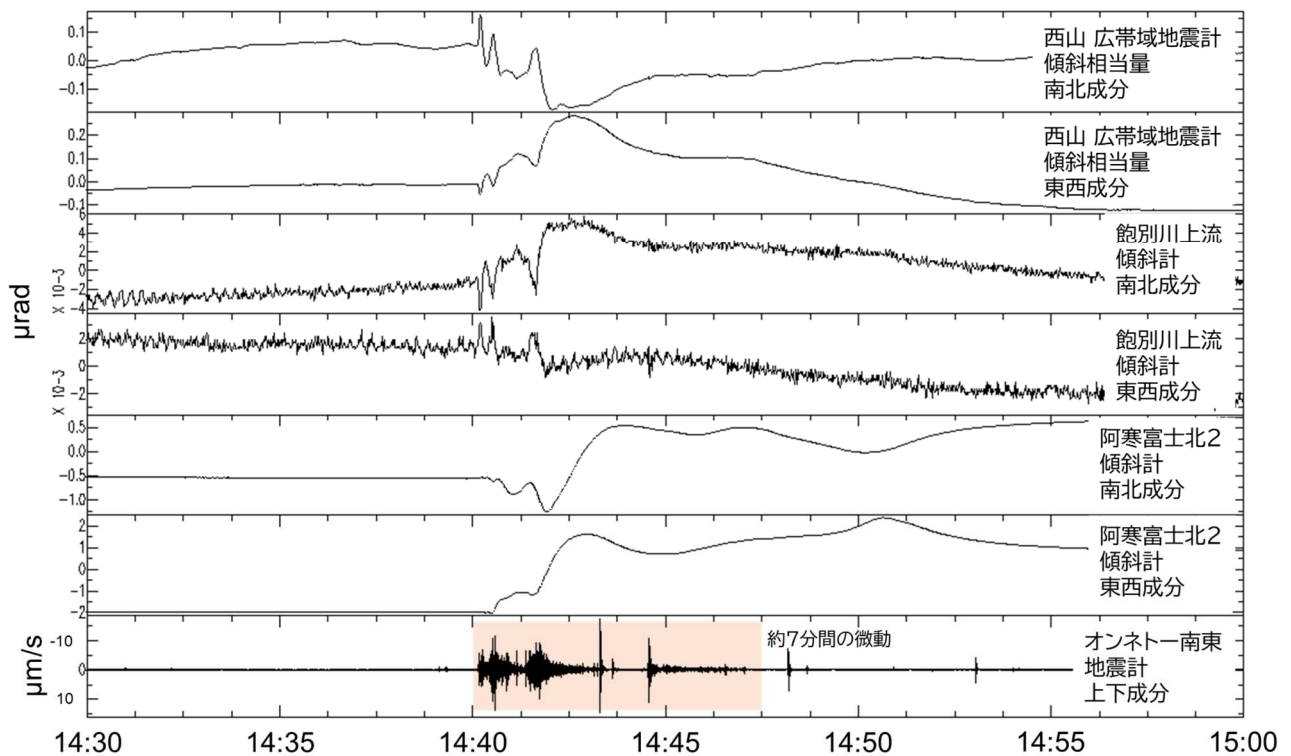


図4 雌阿寒岳 傾斜変動（秒値）と火山性微動（2025年9月12日14時30分～15時00分）



図5 雌阿寒岳 南東側から見た赤沼火口、96-1 火口の状況

（^{かみてしべつ}上徹別監視カメラによる）

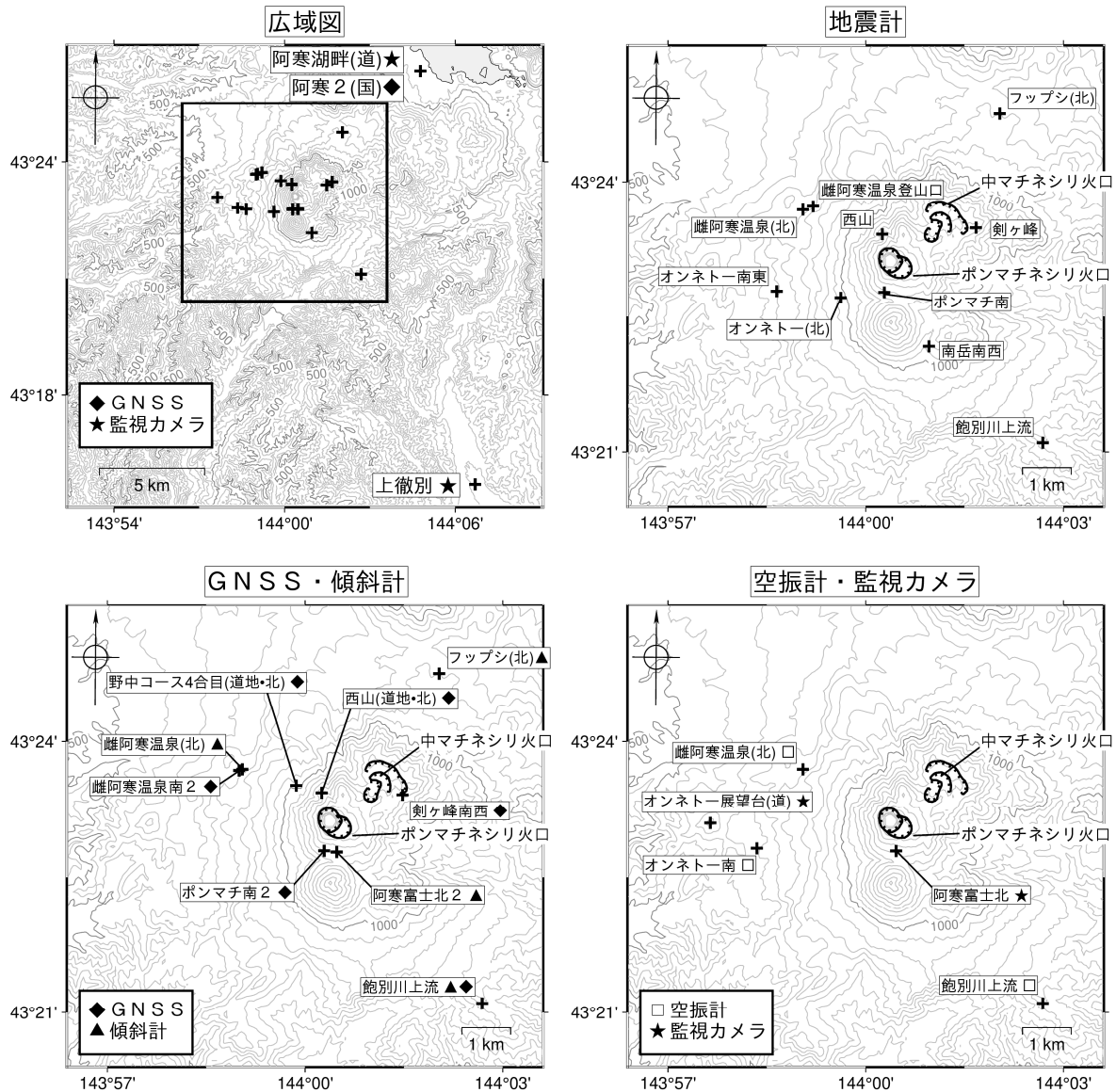


図6 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(道地) : 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所